

2011.8.18 「子供手当が存続？最後まで嘘をつく民主党」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は8月18日です。本日、私も久しぶりに国会に登院しまして、国会对策正副委員長会議に出席して参りました。この会議において問題として取り上げられましたのが「子供手当存続」のビラであります。彼らはこの荒唐無稽なビラを配布するつもりだったようです。このことはすでに報道されていますが、私は「民主党よ、あなた達はいつまでこの詐欺師、ペテン師の体質を続けるのだ。本当に往生際が悪いぞ」と申し上げたいです。

このことについては三党幹事長会議、三党政調会議において特例公債法案を通すためにはいわゆる「バラマキ4K」改めると合意したわけです。特に子供手当は「社会全体で子供を育てる」というのが民主党の理念であり、一律所得制限無しでお金を家計に渡すことが当初の方針でした。それを大幅に修正し、先ずは所得制限を加え「子供は家庭で育てる」つまり、足らざる人に与えていこうという方針に転換し、そしてその金額も大幅に圧縮したのです。給付といっても子ども手当と児童手当は異なります。当初から我々は、児童手当を拡充する方針を主張していましたが、このことはマニフェストを反故にすることになるため、理念が異なると主張し、彼らは同意をしませんでした。しかしながら、それではことが進みませんので、与野党協議の結果、現下の状況を勘案して子供手当を廃止し児童手当を復活、拡充していく方向で話が纏まり、このこ

との取り決めに交わしサインをしたのです。

しかしこの期に及んでも、先程お見せしたビラのように「子供手当は存続します」といった文言を入れてくるわけです。このようなことをされてしまっただけで、一体この方々との議論や合意にどのような意味があったのだろうと考えざるを得ません。言ってみれば、結局は握手や約束をした瞬間に、相手を棍棒で殴りつけ、舌を出してまた嘘をつくということの繰り返しなのです。まさに、民主党政権の本質が分かる問題ではありますが、このような振る舞いは絶対に許されるものではなく、現在の国会は彼らの問題によって明日の本会議も開催されるかわからない状況にあります。本来ならば参議院において子ども手当の合意を受け、本会議にて特例公債法案の趣旨説明を行い、来週には財政金融委員会に諮り可決させていこうという合意が出来ていたにも関わらず、民主党が自ら蒔いた種によって台無しにされてしまったわけです。

そもそも民主党には誰一人として当事者意識を持った人間がおりません。現に 8 月 11 日に私が予算委員会集中審議を行いました、この時も民主党の議員が総理に対して質問する中でこのビラと同じようなことを仰っていました。私はその質問を聞きながら、この人は公共の電波を利用してなにをとんでもないことを言っているなと思い、厳しくヤジで批判致しました。案の定、蓋を開けてみればこのようなビラを作成していたわけです。私は何度もこのビデオレターで申し上げてきましたが、要するに民主党政権の一番の問題は、当事者意

識がなく、その結果、それぞれの立場の人間が言いたい放題好きなことを言っていることでもあります。民主党も組織でありますから、責任者の言ったことには党内で従わなければなりませんし、意思決定の為には様々な議論を党内で行わなければならないはずです。しかしながら、民主党内ではろくに議論が出来ていないのが現状でしょう。ですから、党の幹部が決定したことも、一般の議員には知らされず、納得できないものがそのまま出るため、審査を経ずにビラに刷ることがまかり通ってしまうのです。このような党ですから、我々が話し合いをしたり、約束をしたりすること自体全く意味がありません。この民主党の体質は、彼らの結党の精神が、単に議員バッチを付けるための反自民、選挙の為の互助組織という形で集まってきた野合のため変えられないのです。ですから、彼らにこのような注文をすること自体が無理であり、結局は解散総選挙によって民主党を解党させる以外に日本を守る術はないのです。

本日もこのような状態の中で空しい議論が自民党国会対策正副委員会で行われました。つまり菅氏一人が辞めたからといって民主党が良くなるわけではなく、むしろ民主党の存在そのものが日本にとって害であり、彼らは根っからのペテン師集団であるということを皆様方に申し上げて本日のビデオレターを締めくくります。今後ともご支援よろしく申し上げます。ありがとうございました。